医師/歯科医師として求められる基本的な資質・能力（案）

資料3

平成28年度 医学/歯学コアカリ資質・能力	令和４年度 医学/歯学コアカリ資質・能力(案)	医師/歯科医師 臨床研修の到達目標	【参考】平成25年度 薬学コアカリ資質・能力
6. 医療/歯科医療の質と安全の管理	【前文】医療/歯科医療の質と安全の管理、プロフェッショナリズム	**医師/歯科医師としての基本的価値観（プロフェッショナリズム）**	
1. プロフェッショナリズム	1. プロフェッショナリズム	1. 社会的使命と公衆衛生への寄与、2. 利他的な態度、3. 人間性の尊重、4. 自らを高める姿勢	1. 薬剤師としての心構え
		資質・能力	
		1. 医学・医療における倫理性	2. 患者・生活者本位の視点
	2. 総合的に患者・生活者をみる姿勢（仮）		
9. 生涯にわたって共に学ぶ姿勢	3. 生涯にわたって共に学ぶ姿勢	9. 生涯にわたって共に学ぶ姿勢	9. 自己研鑽 10. 教育能力
8. 科学的探求	4. 科学的探究	8. 科学的探求	8. 研究能力
2. 医学知識と問題対応能力	5. 専門知識に基づいた問題解決能力	2. 医学知識と問題対応能力	5. 基礎的な科学力
	6. 情報・科学技術を活かす能力（仮）		
3. 診療技能と患者ケア	7. 患者ケアのための診療技能	3. 診療技能と患者ケア	6. 薬物療法における実践的能力
4. コミュニケーション能力	8. コミュニケーション能力	4. コミュニケーション能力	3. コミュニケーション能力
5. チーム医療の実践	9. 多職種連携能力	5. チーム医療の実践	4. チーム医療への参画
7. 社会における医療/歯科医療の実践	10. 社会における医療の役割の理解	7. 社会における医療/歯科医療の実践	7. 地域の保健・医療における実践的能力
		6. 医療/歯科医療の質と安全の管理	

※「教育モデル・コア・カリキュラム」は「コアカリ」と記載する。

変更・修正理由

【前文への記載】

○H28年度版コアカリの「医療の質と安全の管理」の扱い

「医療の質と安全の管理」は個々の資質・能力よりも上位に置かれるべき概念であり、安全で質の高い医療を提供するためにはプロフェッショナリズム、医学知識、診療技能、コミュニケーション能力など、全ての資質・能力が求められる。よって、「資質・能力」の１項目として独立させるのではなく、「資質・能力」の前文として記載する方が相応しい。なお、この変更を医療の質・安全領域の専門家も支持している。

○プロフェッショナリズム

定義が一つには定めにくい「プロフェッショナリズム」は、広義に捉えると「資質・能力」の上位に置かれるべき概念であるため、「資質・能力」の前文に記載することが相応しい。一方で、狭義に「医療専門職としての倫理的態度」として捉えると、アウトカム／コンピテンシー基盤型カリキュラム論に基づいて教育・評価を設計する上では、「資質・能力」の１項目として記載する必要がある。

【修正】

○専門知識に基づいた問題解決能力（平成28年度コアカリ：医学知識と問題対応能力）

H28年度版コアカリの「医学知識」と「問題対応能力」という、文言が異なるレベルの概念を並記していた問題を解決したもの。

○患者ケアのための診療技能（平成28年度コアカリ：診療技能と患者ケア）

H28年度版コアカリの「診療技能」と「患者ケア」という、文言が異なるレベルの概念を並記していた問題を解決したもの。また、自分自身の技能向上のためだけではなく、患者の苦痛や不安感に配慮しながら診療を行う技能であることを明確にしたもの。

○多職種連携能力（平成28年度コアカリ：チーム医療の実践）

H28年度版コアカリの「チーム医療の実践」という文言が、「資質・能力」の言葉になっていないという問題を解決したもの。また近年は、「チーム医療」よりも「多職種連携」という文言が、現場に浸透していることによるもの。

○社会における医療の役割の理解（平成28年度コアカリ：社会における医療の実践）

H28年度版コアカリの「社会における医療の実践」という文言が、「資質・能力」の言葉になっていないという問題を解決したもの。

【追加】

○総合的に患者・生活者をみる姿勢（追加）

新型コロナウイルス感染症の感染拡大状況において、多くの中・軽症患者は、感染症を専門としていなくても基本的診療能力を有する医師であれば診療できたはずであったが、自身の専門領域を超えて機動的に対応できる臨床医が不足する事態が発生した。この状況を踏まえて、今後は、自身の専門領域にとどまらず、合併症があっても必要に応じて該当する専門診療科と連携して、患者を総合的にみる姿勢を涵養していくことが重要と考えられる。また、そのような資質・能力をもった医療人が養成されることで、超高齢社会におけるニーズに対応した守備範囲の広い医療人の養成につながり、診療科及び地域の偏在対策に資すると考えられる。

○情報・科学技術を活かす能力（追加）

今後、多様かつ大量のデータを活用した医療が実践されるようになると予想される。そのため、全ての医師に臨床統計や疫学を超えたデータサイエンスを扱うための基礎的な情報リテラシーが求められるようになる。また、人工知能（Artificial intelligence、以下AI）等の発展に伴って、将来医療の形も大きく変化することが予想される。その時代を生きる医師にはAIを含めた情報・科学技術を活かす能力（倫理観も含む）が求められると考えられる。